

## ニュースのことば「ネットカフェ難民」

### ◎ 新闻话语 “网吧难民”

所谓“网吧难民”，是指在二十四小时营业的网吧或漫画茶屋等(以下简称“网吧”)栖身，靠从事被派做日工的工种来维持生活、没有固定住处的年轻人。“网吧难民”这一词，是在2007年1月播放的一个记录片的影响下开始传播开的。2007年3月，在参议院厚生劳动委员会上，劳动大臣为此而接受了议员质询，这一词于是作为年轻贫困阶层的代名词而频繁地出现在报章媒体。

网吧，本来是面向那些家里没有上网条件、或是因旅行或出差等事由需要确认电子邮件或浏览网页的人们而开设的付费设施。一个小时的费用大约是400—500日元，根据滞留时间的长度来加算费用。长时间滞留的话，还可以享受打折的包用费，1500—2000日元就可以待上一个晚上。网吧除了可以上网，有些还可以看漫画、报纸、杂志、电视、DVD、饮用免费饮料·淋浴等等。

被称为“网吧难民”的人，据说大多因为失业等原因而失去了住处。没有固定的工作，登录日工派遣公司，靠收发手机短信来获取工

「ネットカフェ難民」とは、24時間営業のインターネットカフェや漫画喫茶など(以下、ネットカフェ)に寝泊まりしながら、日雇い派遣の仕事に就き生活を維持している住所不定の若者のことです。2007年1月に放映されたドキュメンタリー番組の反響により浸透していった用語で、2007年3月の参議院厚生労働委員会で厚生労働大臣が質問を受けたことにより、若者の貧困層を表すことばとして頻繁にマスコミで取り上げられるようになりました。

ネットカフェは、自宅にインターネット接続環境を持たない人や旅行、出張中の人が、電子メールを確認したりウェブページを閲覧したりできる有料施設です。1時間あたり約400—500円、滞在時間に応じて課金されるシステムです。長時間滞在する場合には割安なパック料金が利用でき、1500—2000円程度で一晩過ごせるようになっています。インターネットの他に、漫画・新聞・雑誌・テレビ・DVD・ドリンクサービス・シャワーなどを利用できる施設もあります。

「ネットカフェ難民」と呼ばれる人たちは、失業など諸般の事情により住居を失った

作讯息。将行李存入付费保管箱，然后前往各公司做一天收入 6000—8000 日元的工。工种跨越流水作业、仓库、搬家业务等各行各业。由于做的是日工，自然不能享受津贴及社会保险。

在日本，没有固定住所便无法成为正式员工。但是，打日工的话，很难得到一笔完整的收入，况且当天赚来的钱还得打点当天的生活，因此没有储存的资金，而无法租房。再者，并不一定每天都有活儿干，于是生活越来越穷困，越来越无法从打日工的境况中脱离出来。

“网吧难民”的生活经媒体曝光以后，2007 年 4 月至 5 月间，各地工会等对全国 19 个都道府县的网吧进行了紧急实地调查。调查结果为：在 93 家作了回复及有用户提供信息的网吧中，有 65 家网吧存在长期滞留利用者。其中不乏因为无家可归而长期在网吧栖身的所谓“网吧难民”的例子，除此以外，在网吧过夜的人中，也有相当一部分是因为时间太晚或者工作时间过长而无法回家的正式职员和签约职员。

泡沫经济崩溃以后，各个企业为了降低成本、提高竞争能力，纷纷调整公司的员工比重，削减正式职员、反过来增加了签约职员和派遣职员的人数。在一直延续到最近的新毕业生雇用冰川期里，有幸被采用为正式职员的年轻人也始终处于严酷的工作环境中。在网吧栖身的年轻人，或许正是日本社会这种经济转形现状的象征吧。

厚生劳动省在出台的方针中表明，将在今年度对还没有完全浮出水面的“网吧难民”这一社会现象实施调查。 (N)



人たちが多いようです。定職は持たず、日雇いの派遣会社に登録し、携帯電話の電子メールで仕事の連絡を受けます。荷物はコインロッカーに預け、日給 6000 円から 8000 円ぐらいの仕事に向かいます。仕事は工場のライン作業や倉庫業務、引っ越し業務など様々な業務種にわたるようですが、日雇いであるため、当然手当や社会保険もない状態での労働です。

日本では、定まった住所がないと正社員として就職できません。しかし、日雇い労働ではまとまった収入が入りにくく、また日当がその日の生活費に消えていくので、部屋を借りるだけの資金を貯めることもできません。しかも、毎日仕事があるとは限らないので、生活はどんどん困窮し、日雇い派遣労働から抜け出せない状態に陥ってしまいます。

マスコミ報道を受け、各地の労働組合などによる緊急聞き取り調査が、2007 年 4 月から 5 月にかけて全国 19 都道府県のネットカフェ店舗で行われました。店舗からの回答や利用者からの情報のあった 93 店舗のうち、65 店舗でネットカフェに長期に滞在する人がいるという結果が公表されています。家がないために長期に滞在している、いわゆるネットカフェ難民の事例も紹介されていますが、ネットカフェを宿代わりにしている人の中には、深夜におよぶ厳しい長時間労働が続いているのに帰ることできない正社員、契約社員たちも相当数いるという結果でした。

ブル崩壊後、企業はコストを削減し競争力を維持していくために、正規雇用を減らし、契約社員や派遣社員の比重を高めてきました。つい最近まで続いた新卒者の就職氷河期の中で、運良く正規雇用された若者も厳しい労働環境に置かれました。ネットカフェで寝泊まりする若者は、こうした日本経済の変化と実態を象徴しているのかもしれません。

厚生労働省は、まだ実態のわかっていない「ネットカフェ難民」について、今年度中に調査を始めるという方針を表明しています。(N)